

# 「明治はひとつ」

校友会の2017年度定時代議員総会が7月30日、駿河台キャンパス・リパティホールで開催された。同総会での向殿政男校友会長、柳谷孝理事長、土屋恵一郎学長のあいさつを抜粋してここに紹介する。



校友会長 向殿 政男



理事長 柳谷 孝



学 長 土屋 恵一郎

全国津々浦々、韓国、台湾からご出席をいただき誠にありがとうございます。

現在、明治大学は大変名声を博しております。これは大学側、教職員、学生もさることながら、校友の皆さま方の各地域でのご尽力の賜で、深く感謝申し上げます。

校友会の現状について2点ご報告させていただきます。はじめに、現在校友会は黒字体質で大変健全な運営を行っている状況です。2016年度より、大学への寄付の一つとして校友会募金「明治大学校友会教育・研究振興基金」を設立し、大学支援の強化に一層取り組んでおります。

次に、明治大学を全国型大学として継続させていくために、地方出身者向けの給付型奨学金「つなげ！紫紺の“たすき”」を給付いたしました。母校と社会からの期待に応えるために、校友の役割の一つに財政的な母校支援と賛助がございます。引き続き、ご協力をお願い申し上げます。

大学への支援というのはいくつかありますが、財政的な支援以外に、各地域における皆さまのご活躍や社会貢献が明治大学の評判を上げていくことにつながると考えております。建学の精神「権利自由・独立自治」そして、いまで言うところ「個を強くする」ことは、自立し、人の意見に耳を傾け、人間力を身につけてどんなことにも恐れず前へ進むことです。

この明大魂は脈々と引き継がれています。明治大学ファミリーの輪を皆さまに広げていただき、この明治を好きになっていく求心力をぜひ大事にしてください、継承していきたいとおもいます。

明治大学は135年以上の長い歴史と伝統を積み重ねてきており、校友数はおよそ54万人という数を輩出しております。この歴史と精神は、日本はもちろん世界的にみても大変貴重であります。これを継続していくためには、校友会の役割はたくさんあると考えております。

本日はいろいろな審議事項がございます。この総会は今後の明治大学および校友会を決めていく重要な会議であり、最高意思決定機関です。ぜひ皆さまとともに実りあるものにしていきたいという願いを込めて、あいさつとさせていただきます。

本日はよろしくお願いたします。

## 母校を支援し、明大魂の輪を広げる

皆さま、おはようございます。向殿校友会長をはじめ校友会の皆さまには、日頃より本学の発展に多大なるご尽力を賜っており、厚く御礼を申し上げます。

さて、現在、明治大学で学ぶ学生の3人に1人は、何らかの奨学金を受けております。そこで本日は、皆さまのお手元の資料の中に、明治大学未来サポーター給費奨学生の『感謝のこぼし』の抜粋版を同封しました。この未来サポーター募金により、2016年度には140人の学生が奨学金を受給できました。お配りした抜粋版には、そのうち7人の受給者から直筆で感謝のこぼしが綴られておりまして、募金による支援が学生達を力強く支えていることを実感できる内容となっております。あわせて、これを見てお分かりのように、本学には経済的に大変苦境にある学生が多くおります。こうした学生達に、大学として何ができるのか。私は、彼らが安心して学ぶことのできる環境を整備することが、何より大切ではないかと考えております。

その一環として、この春には運用の果実を奨学金に充てる「第三号基本金」に15億円積み増しを行い、52億円にいたしました。本学がこうした積み増しを行うのは1991年以来であります。将来の安定的な奨学金制度の運用を見据えて、今後も着実に積み増しを実現してまいりたいと考えております。

ところで、1881年の『明治法律学校設立ノ趣旨』には、「同心協力一校ヲ設立シ」という一節がございます。3人の創立者が、文字通り「同心」つまり同じ心を胸に協力し合って創立した、これが明治大学でございます。この「同心協力」の精神は、校友の皆さま方が常日頃おっしゃっている「明治はひとつ」という言葉に通ずるものであります。学生として大学に在籍するのは数年間ではありますが、「校友は一生」です。校友会の皆さまが現役学生への支援を通じて、次代の校友を育成する。そうした循環を通じて、「同心協力」の輪をさらに広めていただきたい、お願い申し上げます。

大学としましても、これまで校友課、父母会事務室、募金室と、それぞれ縦の別組織でありましたが、この4月に大学支援部を新設し一本化をいたしました。これらを一体として運営することで、皆さまから本学へのさらなるご理解を賜りますよう努めるとともに、校友会の活動を一層サポートしてまいりたいと考えております。

結びになりますが、校友の皆さまのますますのご健勝と、本日の代議員総会の議事が円滑に進行しますことを祈念いたしまして、私のあいさつとさせていただきます。

## 「同心協力」の精神で次代を育成

おはようございます。いま、理事長や校友会長がお話しになりましたが、校友会は、国内だけではなく海外にもあります。「紫紺会」という名前で活動しており、19の「紫紺会」があります。私も、この一年でいくつかの国々を訪問しましたが、マニラとニューヨークにて校友の皆さんとお会いしました。マニラには「マニラ紫紺会」があり、ニューヨークには「ニューヨーク紫紺会」があります。それぞれ私を歓迎してくださって、多忙な中、十数人の方が集まってくれました。海外においても明治大学とのつながりを強くしようという意志がとても感じられて、頼もしく思いましたし、大変有意義な時間を過ごすことができました。

ニューヨークでは、本学名誉博士であるアントニオ・グテーレス国連事務総長を表敬訪問しました。20分間でしたが、20分間というのは異例なぐらい長いそうです。その中で、本学が実施している難民入試の現状等を伝え、事務総長からは明治大学が先頭に立ち、日本での難民入試をさらに広げて欲しいとの言葉をいただきました。その時に撮影した写真はホームページに掲載されていますので、見ていただいた方もいるかと思いますが、私の人生の中ではベストショットでした。この写真は、国連から使用の許諾も得ていますので、さまざまな場面で活用したいと考えています。

さて、明治大学は、今後さらに女子教育と国際化に力を入れる必要があります。本学はこれまででも女子教育に力を入れてきました。日本初の女性弁護士と女性裁判官は本学出身です。今では文学部、農学部、情報コミュニケーション学部の半数は女子学生ですし、国際日本学部の約65%は女子学生です。ただし、この状況がいつまでも続くとは限りません。女子学生に今以上に志願してもらうためにも中野キャンパスⅡ期工事や、生田キャンパスの環境改善等を行わなくてはなりません。また、国際化においては、先行する他大学と比べるとまだまだ遅れをとっています。教育・研究のさらなる発展のためにも皆さんに支えてもらわなくてはいけないのです。ぜひ、国に頼らない大学財政を実現させるためにも寄付のご協力をお願いできれば幸いです。

今日は、台湾と韓国の支部長の方も来ておりますが、これからますます海外の紫紺会、校友会との連携を深めて、さらに世界の中の明治大学として進んでいけるように、皆さんにご協力をお願いしたいと思います。

本日は、誠にめでとようございました。

## 世界の中の明治大学として進む